



ひろげようHMネット —参加医療機関の声—

INTERVIEW

野島内科医院 野島 秀樹 先生

地域医療を支える“かかりつけ医”として ～病診連携に生きるHMネット～

●地域の中での役割と診療の特徴

当院は昭和44年12月8日に開業し、地域の皆様の健康と向き合い、患者様と共に歩んでまいりました。糖尿病を専門に、医師・看護師・管理栄養士によるチーム医療を行っています。薬物療法だけでなく、食事療法や運動療法の支援にも力を入れています。

院内だけでなく、他の医療機関や地域の医療・介護従事者ともチーム医療を行い、地域医療に貢献したいと考えています。

●必要な場面で、確実に情報を確認

HMネットを使い始めたきっかけは、基幹病院の医療情報を入手できることが、病診連携に有用ではないかと考えたからです。

基幹病院と併診している患者さんや、退院後の外来、基幹病院受診後に当院へ来られた患者さんの診療において活用しています。特に、胸部X線写真の比較をしたいときに参照しています。外来が多い中ではありますが、時間が許せば診療情報開示・参照システムを閲覧しています。

●患者さんへのアプローチ

診察時にはHMネットの利用を勧めています。カードの入手方法については、当院受付にて説明しています。患者さんには、かかりつけ医が基幹病院の医療情報を入手でき、診察に有用であることをお伝えしています。

●重複検査の防止と理解の深化

HMネットを利用するようになってから、検査の重複がなくなりました。また、基幹病院で治療を受けている患者さんの理解を深めることができていると感じています。

●診療情報開示・参照システム以外の機能の利用について

診療情報開示・参照以外では、AI胸部X線画像診断支援システムを活用しています。HMネットを立ち上げてデータを移す手間はありませんが、異常陰影の見逃し防止に有用だと思います。

●より使いやすい仕組みへ

HMネットで次回の受診や検査予定、カルテ記事が分かるようになると、さらに有用になると考えています。また、退院時や紹介時には、HMカードを作成していただけるよう、開示病院において一層努めていただきたいと考えています。開示病院でHMカードを作成していただくよう説明しても、受付や窓口の職員の方がHMカードについて十分に把握されておらず、後日当院を再診された患者さんから「HMカードは作ってもらえなかった」と言われることがあります。開示病院内におけるHMカード作成体制のさらなる周知・改善が図られることを期待しています。

●これから利用される医療機関へ

HMネットはとても有用な仕組みです。まだ参加されていない医療機関や、十分に活用できていない医療機関にも、ぜひご活用いただきたいと思います。医療情報が閲覧できない場合は、「要望を送る」機能で伝えると、数日以内に回答・対応していただけるため助かっています。

野島内科医院

〒734-0023 広島市南区東雲本町1丁目12番3号
TEL: 082-282-5517/FAX: 082-284-5684

